

高大接続・大学入試の在り方にかかる論点について

1. 高校教育・大学教育にかかる論点

(論点 1) 今後どのような人材を育成することが求められるか。

そのための高校教育、大学教育の在り方はどうあるべきか。

(論点 2) あるべき高校教育を実現するため、何をすべきか。

(論点 3) あるべき大学教育を実現するため、何をすべきか。

2. 高大接続・大学入学者選抜にかかる論点

(論点 1) 高校教育、大学教育の在り方を踏まえ、高大接続・大学入学者選抜の改革の方向性はどうあるべきか。

(論点 2) 大学入学者選抜の在り方を転換するため、何をすべきか。

(論点 3) 教育内容の高大連携をどのように推進していくか。

高大接続・大学入学者選抜にかかる論点

(論点1) 高校教育、大学教育の在り方を踏まえ、高大接続・大学入学者選抜の改革の方向性はどうあるべきか。

○ 大学入学者選抜は高校教育と大学教育の接点。大学のアドミッションポリシーの下、若者の能力、意欲、適性を見極め、若者を伸ばし鍛える大学教育につなげていくことが重要。

現状は、知識偏重の1点刻みのテストにより、

- ・アドミッションポリシーと大学入学者選抜において求めている能力とのギャップ
- ・大学入学者選抜に合格することが目的化し、高校段階で主体的に学習に取り組み生涯にわたって学ぶ基礎となる力や多様な体験活動の軽視
- ・学生集団としての多様性の確保が不十分等

推薦・AO入試の一部が本来の趣旨と異なり事実上学力不問となることなどにより、

- ・高校生の学力中位層の学習時間の減少
- ・早期合格者の学習意欲減退が他の生徒への悪影響
- ・大学で高校レベルの補習教育の必要性の増大

⇒高校教育、大学教育、大学入学者選抜の在り方の三者を一体的に捉えた改革が必要。

- ①高校教育の質の確保・向上（基礎的・共通的な学力を客観的に把握できる仕組みの検討など）
- ②大学教育の質的転換と可視化
- ③大学教育に必要な学力の判定と生徒の能力を多面的・総合的に評価・判定する大学入学者選抜への転換
- ④教育内容の高大連携の促進

(論点2) 大学入学者選抜の在り方を転換するため、何をすべきか。

- ①大学教育に必要な学力の評価・判定はどうあるべきか。(大学入試センター試験の評価と新たな方向性の検討)
 - ・評価・判定方法
 - ・受験機会
 - ・出題内容
 - ・その他 (ICTの活用、民間団体等による外部検定試験の活用 等)

高校教育への影響については、適切に考慮。

②各大学による入学者選抜はどうあるべきか。

- ・アドミッションポリシーの具体的明示。大学入学後の教育プログラムの公開（オープンキャンパス等の取組を積極的に活用）。
- ・高校での基礎的・共通的な学力を客観的に把握する新たな仕組みの推薦・AO入試での活用も想定。
- ・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する選抜に転換。面接（プレゼンテーション、集団討論等）、論文、高校の推薦書、多様な活動・資格を評価。
- ・社会人、留学生、障害者の受入れや飛び入学等による多様な学生の受入れを促進。国際バカロレア資格の活用も促進。

(論点3) 教育内容の高大連携をどのように推進していくか。

- 高校関係者と大学関係者間で互いの教育目標や教育内容、方法等についての相互理解を図るための様々な協議の機会の拡大。
- 高校生を対象とした大学レベルの教育機会の提供の推進。学習成果は入学者選抜や大学での単位認定にも反映。特に、スーパーサイエンスハイスクール、スーパーグローバルハイスクール等において、高大連携プログラムを促進。
- 大学における高校レベルの補習の必要性を減少させることができるよう、各大学が入学者に求める学力について、大学入学前における大学から高校への情報提供、準備教育など高大連携の充実。
- 大学入学後の専攻変更等の柔軟化（大学・学部・学科の枠を超えた履修機会の拡大。大学募集時の大括り化、転学・転部の機会、短大から4年制大学への編入学）、専門高校から大学への進学の世界拡大。高校専攻科から大学への編入学の途を開く。